

楽天棚卸ツールの構成および作業手順について

2020-12-01 札幌藤野店

ツール構成

楽天棚卸ツールは、下記URL・ファイルで構成する。

- ・ 楽天棚卸ツール（管理者用）

<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/admin.htm>

<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/admin/encoding.js>

- ・ 楽天棚卸ツール（端末用）

<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/client.htm>

- ・ 楽天棚卸ツール（サーバ）

<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/server.php>

- ・ 楽天棚卸ツール（統合用）

<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/integrate.xlsm>

また、リポジトリ（棚卸データの蓄積場所）を下記URLで作成する。

- ・ リポジトリ

<http://mandai-net.sub.jp/rakuten/inventory/repository/>

ファイル構成

楽天棚卸ツールでは、下記ファイルを取り扱う。

- ・ 商品情報CSVファイル（RMSに登録されているすべての商品の商品情報）

dl-item-yyyyymmddhhmm-nn.csv ※yyyyymmdd=処理日付、hhmm=処理日時、nn=処理通番

- ・ 棚卸対象CSVファイル（棚卸対象商品の商品情報のみ）

sss_rakuten_yyyyymmdd.csv ※sss=店舗、yyyyymmdd=基準日

- ・ 棚卸状況CSVファイル（サーバに蓄積されているすべての棚卸データ）

download_sss_rakuten_yyyyymmdd.csv ※sss=店舗、yyyyymmdd=基準日

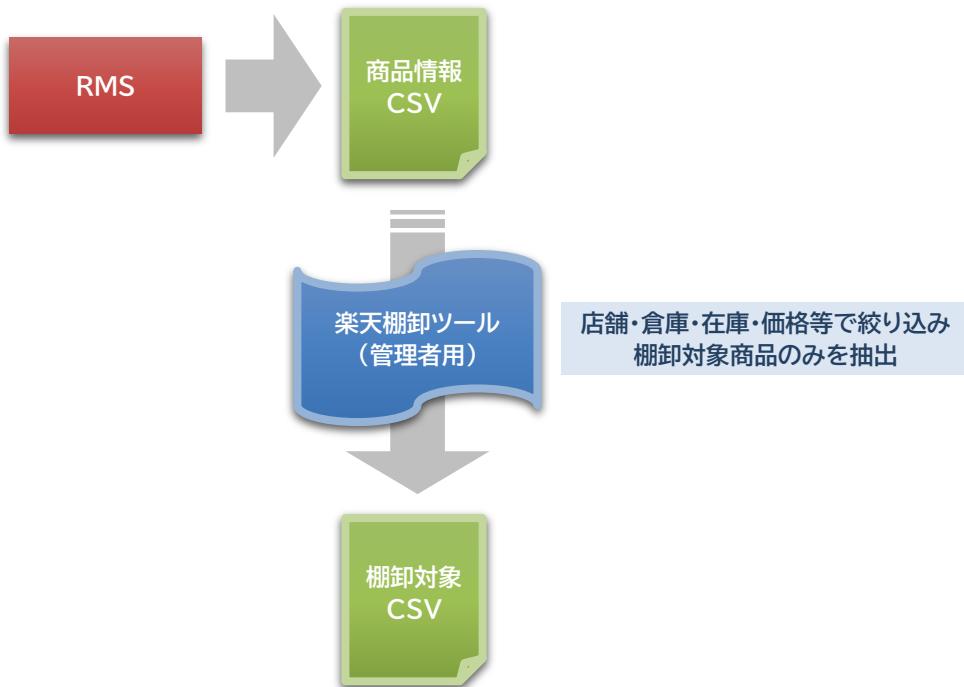
- ・ 棚卸結果CSVファイル（商品情報と棚卸データの統合結果）

result_sss_rakuten_yyyyymmdd.csv ※sss=店舗、yyyyymmdd=基準日

作業手順

■事前処理

【作業フロー】



【商品情報CSVファイルのダウンロード】

- ・ [RMS](#)にログインし、トップ画面を開く。
- ・ 「店舗設定」→「1 商品管理」をクリックし、「商品管理」画面を開く。
- ・ 「一括編集機能」欄内の「CSV更新（変更・削除）」をクリックし、「■CSVファイルのダウンロード」画面を開く。
- ・ 「CSVファイルの項目を選択してダウンロード」をクリックし、「■商品情報カスタマイズダウンロード」画面を開く。
- ・ 下記5項目のチェックボックスをオンにし、「CSVファイルをダウンロード」ボタンをクリックする。
 - 商品名
 - 販売価格
 - 倉庫指定
 - 商品画像URL
 - 在庫数
- ・ 楽天FTPサーバの「/ritem/download」フォルダ配下に商品情報CSVファイル「dl-itemyyyymmddhhmm-nn.csv」が作成されるのを待ち、当該ファイルをダウンロードする。

【棚卸対象CSVファイルのダウンロード】

- ・ 楽天棚卸ツール（管理者用）を開く。
- ・ 「ファイルを選択」ボタンをクリックし、商品情報CSVファイル「dl-itemyyyymmddhhmm-nn.csv」を選択する。
- ・ 必要に応じて、抽出条件を各々指定する。このとき、「基準日」「店舗」の各欄の内容がダウンロード時のファイル名に反映される。

※棚卸対象CSVファイルのファイル名は、リポジトリを識別するための管理キーとして用いるため、特段の事情がない限り変更すべきでない。また、各端末にコピーする際や棚卸作業中にファイル名を変更してはならない。

- ・ 「実行」ボタンをクリックし、「商品一覧」画面を開く。
- ・ 抽出条件に合致したすべての商品が表示される。必要に応じて、フィルタ機能を用いて商品を検索し、該当商品の「棚卸対象」チェックボックスを操作するなどして、棚卸対象のすべての商品の「棚卸対象」チェックボックスをオンにする。
- ・ 「出力」ボタンをクリックし、棚卸対象CSVファイル「sss_rakuten_yyyymmdd.csv」をダウンロードする。
- ・ 必要に応じて、棚卸対象CSVファイルを各端末にコピーする。

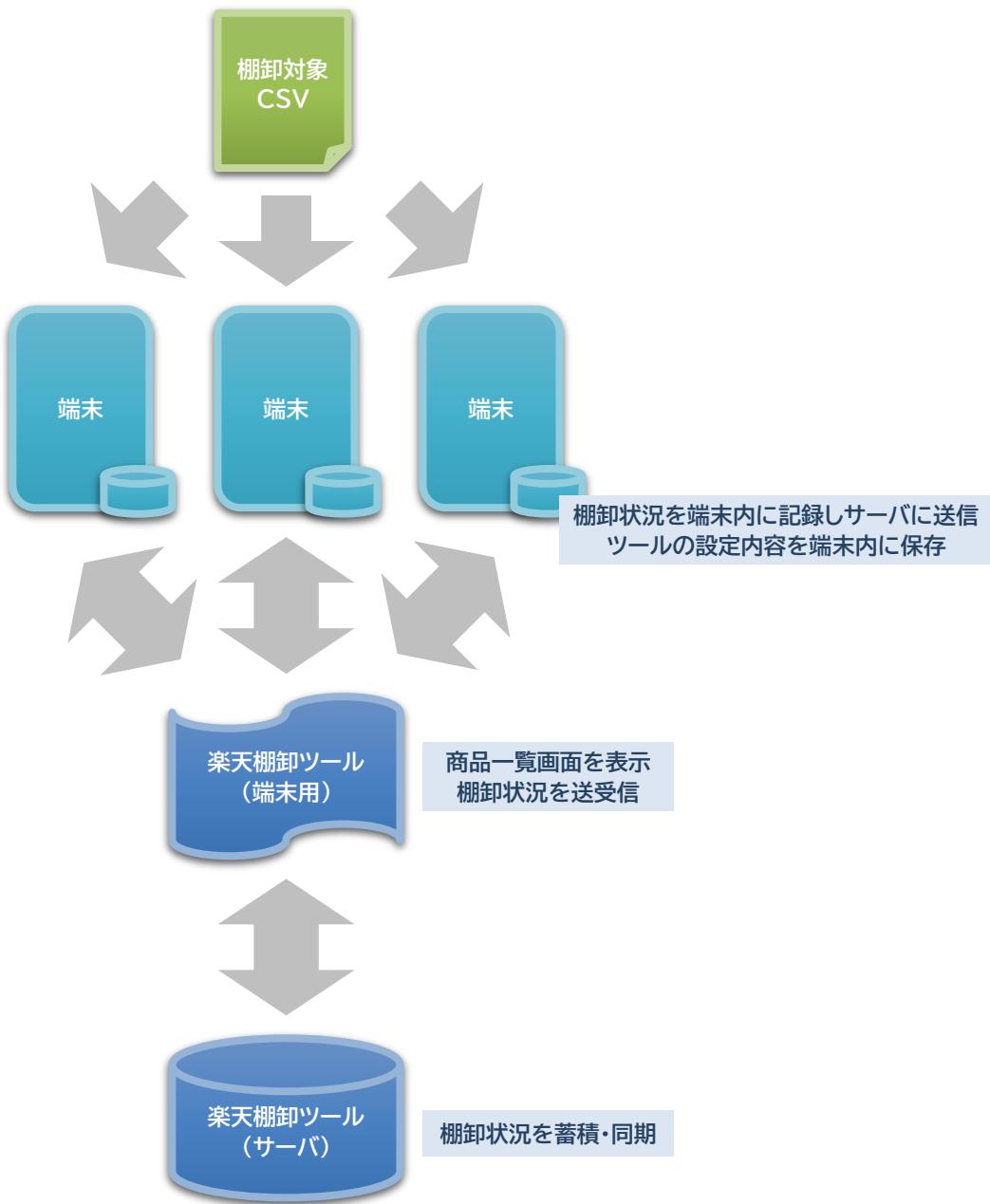
【端末初期化】

※2020年11月30日以前に楽天棚卸ツールを使用したことのある端末や、過去の使用状況が不明な端末に対して、2020年12月1日以降の初回使用時にのみ実施する。

- ・ 各端末で楽天棚卸ツール（端末用）を開く。
- ・ 「≡」→「データ管理」をクリックし、「データ管理」画面を開く。
- ・ 「端末設定：データ」欄にある「消去」ボタンをクリックする。
- ・ 「全データを消去します。この操作は元に戻せません。」と記載されているポップアップ画面が表示される。「OK」ボタンをクリックする。
- ・ 「≡」→「ファイル」をクリックし、「楽天棚卸ツール（端末用）」画面を開く。
- ・ 「再読み込み」ボタンをクリックする。

■棚卸実施

【作業フロー】

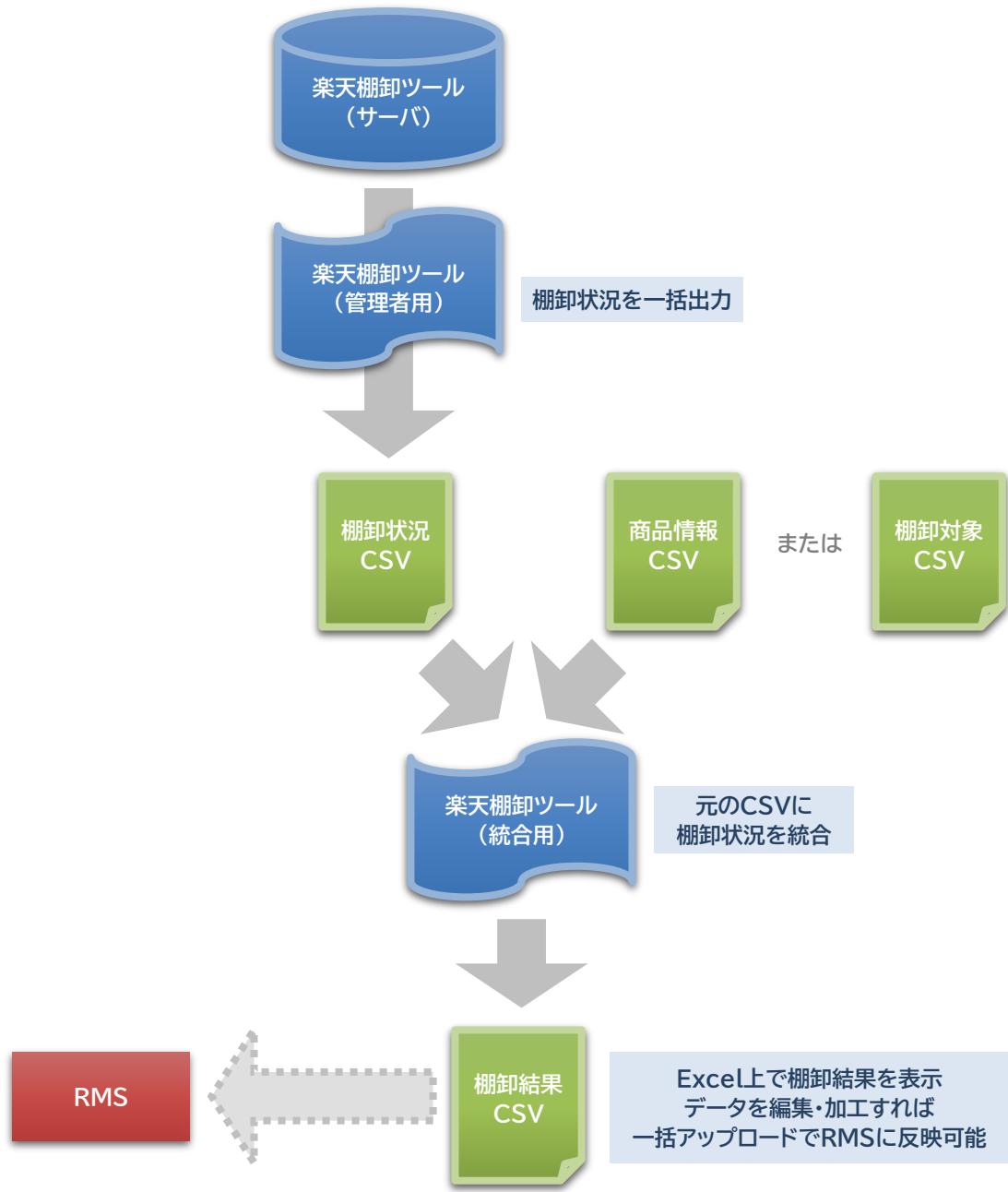


【作業実施】

- 棚卸作業用の各端末で楽天棚卸ツール（端末用）を開く。
- 「ファイルを選択」ボタンをクリックし、棚卸対象CSVファイル「sss_rakuten_yyyymmdd.csv」を選択する。
- 端末を店頭に持ち込み、「商品一覧」画面を確認しながら棚卸作業を実施する。このとき、下記一連の処理により、サーバと各端末の棚卸データが定期的に同期される。
 - 端末では、棚卸データ（「棚卸」ラジオボタンの選択状態および「メモ」欄の内容）を変更した際、棚卸データを端末内に記録した上でサーバに送信する。また、サーバから最新の棚卸データを受信し、「商品一覧」画面に反映する。
 - サーバでは、端末から受信した棚卸データを蓄積し、最新の棚卸データを端末に送信する。

■事後処理

【作業フロー】



【棚卸状況CSVファイルのダウンロード】

- ・ [楽天棚卸ツール（管理者用）](#)を開く。
- ・ 「≡」→「データ管理」をクリックし、「データ管理」画面を開く。
- ・ 「リポジトリ」欄で「sss_rakuten_yyyymmdd」（棚卸対象CSVファイルのファイル名から「.csv」を除いたもの）を選択し、「データ形式」欄で「CSV」を選択する。
- ・ 「ファイル」欄の「ダウンロード」ボタンをクリックし、棚卸状況CSVファイル「download_sss_rakuten_yyyymmdd.csv」をダウンロードする。

【棚卸結果CSVファイルの生成】

- ・ 楽天棚卸ツール（統合用） をダウンロードし、Excelで開く。
- ・ 「商品情報CSVファイル/棚卸対象CSVファイル」「棚卸状況CSVファイル」の各欄の「選択」ボタンをクリックし、該当ファイルを選択する。
- ・ 「データ統合」欄の「開始」ボタンをクリックする。
- ・ 統合処理が完了すると、「名前を付けて保存」画面が表示される。
- ・ 棚卸結果CSVファイル 「result_sss_yyyyymmdd.csv」が生成される。

【棚卸結果の確認】

- ・ Excelで棚卸結果CSVファイル 「result_sss_yyyyymmdd.csv」を開く。
- ・ 棚卸結果CSVファイルには、商品情報CSVファイルまたは棚卸対象CSVファイルのすべての内容に加え、下記4列が追加されている。
 - 棚卸
 - 棚卸更新日時
 - メモ
 - メモ更新日時
- ・ 棚卸結果を確認し、RMSの商品情報を修正する。

以上